

樹木の病害虫に関する調査研究

予算区分：県単	研究期間：令和元～5年度	担当：森林科学係 北野 皓大
---------	--------------	----------------

カシノナガキクイムシモニタリング調査（3）

I はじめに

「ナラ枯れ」は、カシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）が繁殖のため材内に穿入し、その際に持ち込まれる病原菌（*Raffaelea quercivora*）通称「ナラ菌」によってミズナラやコナラをはじめとするブナ科の樹木（ブナ属を除く）が枯死する伝染病である。本県では、2010年みなかみ町湯桧曾で被害が確認された。2014年には被害の発生はゼロとなったものの、その後2015年に再び被害が発生し、以後拡大傾向にある。被害の拡大により、森林景観の損失、民家や電線、道路への倒木被害の発生、水源涵養や土砂災害防止等の森林の公益的機能の低下等、様々な影響が懸念されている。また、カシナガは在来種であることから県内各地に生息している可能性がある。そのため本研究では、県内唯一の被害地であるみなかみ町で、生息状況を把握し被害発生予測及び被害拡大傾向を分析し、県内複数箇所で定点観測を行い、分布範囲や密度を把握することを目的としてモニタリング調査を実施した。

II 方 法

モニタリング調査は、みなかみ町内21か所、前橋市、藤岡市、下仁田町、高山村、太田市、桐生市、榛東村各1か所の計28か所で行った。調査地は、無被害地での被害拡大を防ぐためスギ林内とした。トラップは衝突板式トラップ（透明）（サンケイ化学(株)）に集合フェロモンのカシナガコール（サンケイ化学(株)）、エタノール誘引剤を各1つずつ設置した（図－1）。衝突板式トラップの捕虫部の保存液はプロピレングリコールを使用した。調査期間は5月10日から12月15日として、月1回収を行った。捕殺した虫をカシナガとその他（ルイスナガキクイムシ、ヨシブエナガキクイムシ等）に分別し、その後雌雄の分別を行い捕殺数の計測を行った。



図－1 衝突板式トラップ

III 結果及び考察

結果を表－1及び図－2に示す。カシナガが捕獲された調査地は28か所中18か所であった（みなかみ町内13か所、前橋市、藤岡市、太田市、桐生市、榛東村）。

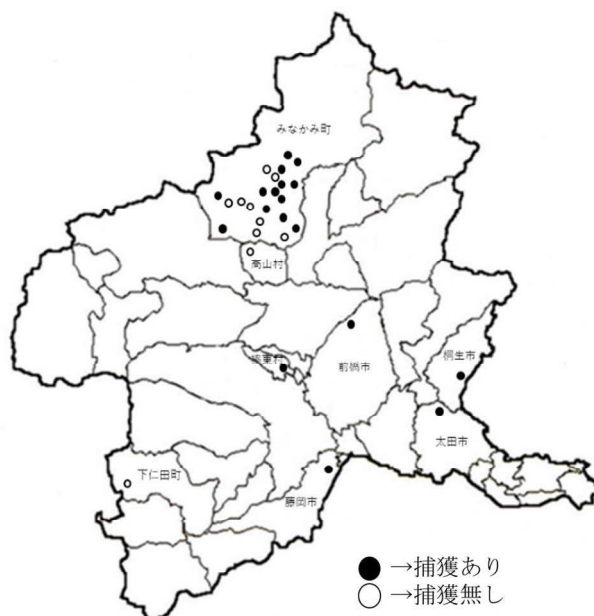
3年間の調査を通して、カシナガが捕獲された場所は増加しておりカシナガの生息域が拡大していると考えられる。特に、藤岡市と榛東村においてカシナガの捕獲数が年々増加しており、今後ナラ枯れが発生する可能性がある^{1) 2)}。

また、今年度は新たに沼田市においてナラ枯れが確認された。みなかみ町から拡大したと考えられる。今後もカシナガの生息域は拡大し、ナラ枯れが発生する地域は増加することが考えられる。その

ため継続的に生息調査を実施し、カシナガの生息状況を把握するとともに、ナラ枯れ被害発生との関係を分析し、早期発見及び早期対策に寄与したい。

表ー 1 各調査地の捕獲数

調査地	標高 (m)	オス	メス	その他
みなかみ町 湯檜曾	593	0	1	0
みなかみ町 幸知	530	0	1	0
みなかみ町 谷川	523	32	33	6
みなかみ町 阿能川	642	0	0	0
みなかみ町 湯原	552	0	0	0
みなかみ町 小日向①	524	6	2	0
みなかみ町 小日向②	478	1	11	163
みなかみ町 寺間①	541	1	4	1
みなかみ町 寺間②	702	9	14	1
みなかみ町 上牧	429	1	3	0
みなかみ町 下牧	447	2	2	0
みなかみ町 後閑	655	1	1	0
みなかみ町 小川	853	9	3	0
みなかみ町 新巻	726	0	0	0
みなかみ町 相俣	676	0	0	0
みなかみ町 永井	771	1	0	0
みなかみ町 姉山	674	0	0	0
みなかみ町 入須川	743	1	1	0
みなかみ町 師田	465	0	0	0
みなかみ町 羽場	582	0	0	0
みなかみ町 下津	427	0	0	0
高山村	854	0	0	0
前橋市	973	3	0	0
桐生市	201	4	4	2
太田市	152	32	44	1
藤岡市	117	22	9	2
下仁田町	662	0	0	0
榛東村	223	114	77	0



図ー 2 2023 年捕獲位置図

引用文献

- 1) 北野皓大 (2021), カシノナガキクイムシモニタリング調査 (1), 群林試業報 (R3), 34-35
- 2) 北野皓大 (2022), カシノナガキクイムシモニタリング調査 (2), 群林試業報 (R4), 24-25